

表 5-1. 世代別婚姻関係の構成

	世代	未婚	既婚	再婚	離婚	死別	無回答	総計
男性	25 歳未満	124(98.4)	2(1.6)					126
	25-34 歳	117(55.7)	81(38.6)	4(1.9)	8(3.8)			210
	35-44 歳	57(24.7)	151(65.4)	11(4.8)	9(3.9)		3(1.3)	231
	45 歳以上	19(18.3)	67(64.4)	9(8.7)	7(7.7)		1(1.0)	104
男性計		317(47.2)	301(44.9)	24(3.6)	25(3.7)		4(0.6)	671
女性	25 歳未満	149(90.3)	14(8.5)				2(1.2)	165
	25-34 歳	97(42.4)	111(48.5)	7(3.1)	11(4.8)		3(1.3)	229
	35-44 歳	55(17.6)	203(64.9)	20(6.4)	34(10.9)		1(0.3)	313
	45 歳以上	12(7.4)	120(74.1)	10(6.2)	14(8.6)	5(3.1)	1(0.6)	162
女性計		313(36.0)	448(51.6)	37(4.3)	59(6.8)	5(0.6)	7(0.8)	869
総計		630(40.9)	749(48.6)	61(4.0)	84(5.5)	5(0.3)	11(0.7)	1,540

職業と姻戚関係の構成についてみると、男性は未婚者で 48.9%が常勤職と半数を占めており、次いで学生が 23.0%と続き、非常勤 12.9%、自営業 6.3%であったが、無職が 23 名 (7.3%)と多く、28 名の無職者のうち未婚が 82.1%を占めていた。また、女性では同様に未婚者は常勤職が 43.8%、学生が 27.5%と男性より学生がやや高値であった。未婚女性の無職者は 23 名(7.3%)と男性に比べ違いは認められなかった。婚姻すると男性は既婚、再婚ともに常勤職が 86.0%、83.3%と高値を示していた。離婚男性は 68.0%であり有配偶男性に比べ有意($p<0.05$)に低値を示していた。

女性は専業主婦が既婚で 35.3%、再婚 32.4%であるが、離婚者は常勤職に就くものが 50.8%と多くなっていた。しかし既婚の場合は、非常勤職に就くものが既婚 33.0%、再婚 29.7%と多くなっていた。離婚者の無職は 1 名 (1.7%) であり、死別者を含めると 2 名となっていた。

尚、主夫と回答していた 1 名の男性は 44 歳で子どもを持たないものであった。未婚女性で主婦と回答していた 2 名は 2 歳の子どもを持つ 37 歳と 2 人の子持ちで長子が 19 歳で 42 歳であった。

表 5-2. 婚姻形態と職業

性別婚姻関係		常勤職	非常勤	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
男性	未婚	155(48.9)	41(12.9)	20(6.3)	86(23.0)		28(4.2)	5(1.6)	317
	既婚	259(86.0)	6(2.0)	34(11.3)		1(0.3)	1(0.3)		301
	再婚	20(83.3)		2(8.3)			2(8.3)		24
	離婚	17(68.0)	2(8.0)	4(16.0)			1(4.0)	1(4.0)	25
	死別								
	無回答	2(50.0)		1(25.0)			1(25.0)		4
男性計		453(67.5)	49(7.3)	57(10.9)	73(10.9)	1(0.1)	28(4.2)	6(0.9)	671
女性	未婚	137(43.8)	55(17.6)	7(2.2)	86(27.5)	2(0.6)	23(7.3)	3(1.0)	313
	既婚	101(22.5)	148(33.0)	37(8.3)		158(35.3)		4(0.9)	448
	再婚	6(16.2)	11(29.7)	6(16.2)		12(32.4)	2(5.4)		37
	離婚	30(50.8)	23(39.0)	5(8.5)			1(1.7)		59
	死別	1(20.0)	2(40.0)	1(20.0)			1(20.0)		5
	無回答		2(28.6)	1(14.3)		1(14.3)		3(42.9)	7
女性計		275(31.6)	241(27.7)	57(6.6)	86(9.9)	173(19.9)	27(3.1)	10(1.2)	869
総計		728(47.3)	290(18.8)	118(7.7)	159(10.3)	174(11.3)	55(3.6)	16(1.0)	1,540

6. 子どもの数

調査対象者の子どもを保有する数について無回答を除く有効回答者でみると、男性の子ども保有は 625 名中 265 名 (42.4%)、女性は 806 名中 426 名 (52.9%) と高値であり両者間に有意差($p<0.001$)を認めた。未婚者の子ども保有率は男性では皆無であるが、女性は 8 名 (2.6%) にみられた。その内訳は、25 歳未満 1 名で 1 人子、25-34 歳 3 名いずれも 1 人子、35-44 歳 5 名、うち 1 人が 2 名、2 人が 3 名であった。

平均子ども数は男性 $1.9 \pm 0.7(1-5)$ 人、女性 $1.9 \pm 0.8(1-6)$ 人であり男女ともに同じであった。子どもを持っている長子の年齢をみると男性は 10.1 ± 6.6 歳 (0-28 歳)、女性は 11.7 ± 6.8 歳 (0-28 歳) であった。

表 6-1. 男性の婚姻形態と子どもの有無

子どもの数		無	1人	2人	3人	4人以上	無回答	総計
男性	未婚	317(100)						317
	既婚	37(12.3)	69(22.9)	119(39.5)	33(11.0)	5(1.7)	38(12.6)	301
	再婚	2(8.3)	4(16.7)	9(37.5)	3(12.5)		6(25.0)	24
	離婚	3(12.0)	11(44.0)	9(36.0)		1(4.0)	1(4.0)	25
	死別							
	無回答	1(25.0)		2(50.0)			1(25.0)	4
男性計		360(53.7)	84(12.5)	139(20.7)	36(5.4)	6(0.9)	46(6.9)	671

表 6-2. 女性の婚姻形態と子どもの有無

子どもの数		無	1人	2人	3人	4人以上	無回答	総計
女性	未婚	305(97.4)	5(1.6)	3(1.0)				313
	既婚	52(11.6)	97(21.7)	180(40.2)	54(12.1)	8(1.8)	57(12.7)	448
	再婚	9(24.3)	5(13.5)	8(21.6)	7(18.9)	3(8.1)	5(13.5)	37
	離婚	11(18.6)	17(28.8)	23(39.0)	8(13.6)			59
	死別		1(20.0)	1(20.0)	3(60.0)		2(28.6)	51(14.3)
	無回答	3(42.9)		2(28.6)		1(14.3)	1(14.3)	7
女性計		380(43.7)	125(14.4)	217(25.0)	72(8.3)	12(1.4)	63(7.2)	869
総計		740(48.1)	209(13.6)	356(23.1)	108(7.0)	18(1.2)	109(7.1)	1,540

7. 調査対象者の最終学歴

調査対象者の最終学歴についてみると男性では、中学校卒 11.0%、高校卒 40.4%、専門校卒 12.7%、短期大卒 1.9%、大学卒 29.1%、大学院卒 3.3%と分布していた。これに対し女性は中学卒 8.7%、高校卒 37.6%、専門校卒 17.0%、短期大卒 16.8%、大学卒 16.9%、大学院卒 0.5%であった。大学、大学院卒は男性に多く有意差($p<0.001$)を認め、専門校、短期大学卒は女性に多く有意差($p<0.05$, $p<0.001$)を認めた。

表 7-1. 調査対象者の最終学歴の構成 (男性)

	世代	中学卒	高校卒	専門卒	短大卒	大学卒	大院卒	無回答	総計
男性	25歳未満	34(27.0)	59(46.8)	8(6.3)		19(15.1)	2(1.6)	4(3.2)	128
	25-34歳	16(7.6)	78(37.1)	32(15.2)	4(1.9)	67(31.9)	11(5.2)	2(1.0)	210
	35-44歳	16(6.9)	96(41.6)	38(16.5)	8(3.5)	64(27.7)	5(2.2)	4(1.7)	231
	45歳以上	8(7.7)	38(36.5)	7(6.7)	1(1.0)	45(43.3)	4(3.8)	1(1.0)	104
男性計		74(11.0)	271(40.4)	85(12.7)	13(1.9)	195(29.1)	22(3.3)	11(1.6)	671

表 7-2. 調査対象の最終学歴の構成（女性）

	世代	中学卒	高校卒	専門卒	短大卒	大学卒	大院卒	無回答	総計
女性	25歳未満	43(26.1)	67(40.6)	20(12.1)	14(8.5)	12(15.1)		9(5.5)	165
	25-34歳	12(5.2)	63(27.5)	47(20.5)	41(17.9)	60(26.2)	2(0.9)	4(1.7)	229
	35-44歳	16(5.1)	129(41.2)	53(16.9)	64(20.4)	45(14.4)	1(0.3)	5(1.6)	313
	45歳以上	5(3.1)	68(42.0)	28(17.3)	27(16.7)	30(18.5)	1(0.6)	3(1.9)	162
女性計		76(8.7)	327(37.6)	148(17.0)	146(16.8)	147(16.9)	4(0.5)	21(2.4)	671
総計		150(9.7)	598(38.8)	233(15.1)	159(10.3)	342(22.2)	26(1.7)	32(2.1)	1,540

8. 未婚者における結婚への意識

未婚者における結婚への意欲度について問いかけている。男性は「はい」と答え結婚意欲のあるものが全体で172名（50.3%）であり、「いいえ」と否定するのが27.8%、わからないが20.8%であった。5歳階級別でみると20歳前半が「はい」と回答するのが34.9%と最も低く、「いいえ」が42.9%と最も高いことが示されていた。結婚を望む者が多い年代は30歳後半で63.4%、結婚を否定するのが40歳前半では12.0%と最も低く、わからないと判定を保留するのが36.0%となっていた。

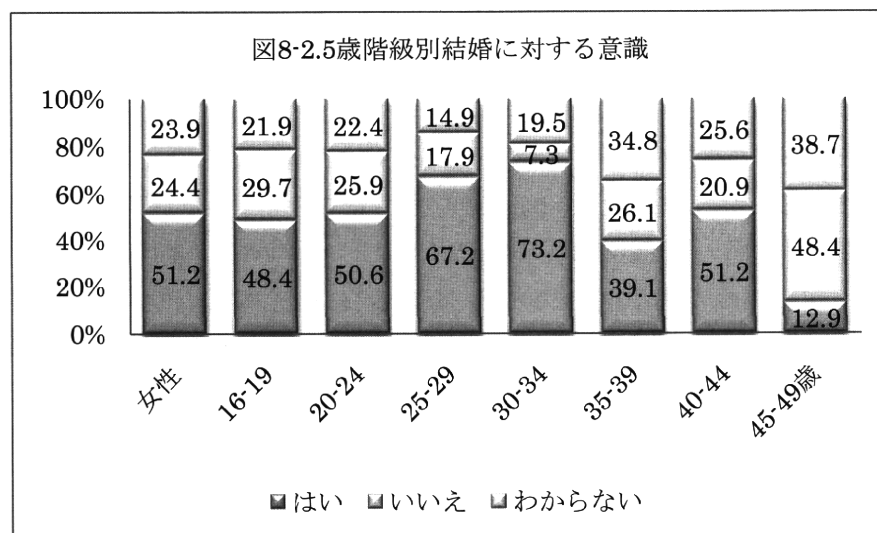
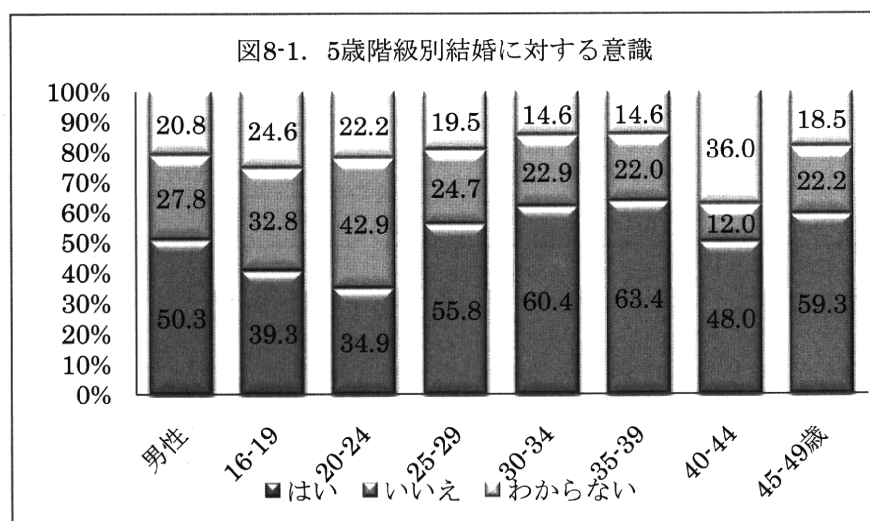
表 8-1. 5歳階級別未婚者における結婚への意識

	はい		いいえ		わからない		無回答		総計
未婚男性	172	50.3	95	27.8	71	20.8	4	1.2	342
16-19歳	24	39.3	20	32.8	15	24.6	2	3.3	61
20-24	22	34.9	27	42.9	14	22.2			63
25-29	43	55.8	19	24.7	15	19.5			77
30-34	29	60.4	11	22.9	7	14.6	1	2.1	48
35-39	26	63.4	9	22.0	6	14.6			41
40-44	12	48.0	3	12.0	9	36.0	1	4.0	25
45-49歳	16	59.3	6	22.2	5	18.5			27

女性では結婚の意欲があるのが51.2%、いいえと否定するもの24.4%、わからないと判定を保留するのが23.9%となっていた。5歳階級別でみると意欲度の最も高い年代は30歳前半で73.2%であり、次に20歳後半の67.2%であり、最も低いのが40歳後半で12.9%となっていた。40歳代後半は結婚を否定するのが48.4%最も高く、30歳前半が7.3%と低値であった。

表 8-2. 5 歳階級別未婚者における結婚への意識

	はい		いいえ		わからない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
未婚女性	193	51.2	92	24.4	90	23.9	2	0.5	377
16-19 歳	31	48.4	19	29.7	14	21.9			64
20-24	43	50.6	22	25.9	19	22.4	1	1.2	85
25-29	45	67.2	12	17.9	10	14.9			67
30-34	30	73.2	3	7.3	8	19.5			41
35-39	18	39.1	12	26.1	16	34.8			46
40-44	22	51.2	9	20.9	11	25.6	1	2.3	43
45-49 歳	4	12.9	15	48.4	12	38.7			31
総計	365	50.8	187	26.0	161	22.4	6	0.8	719



9. 子どもを持つことに対する意識

子を持つことへの意識を問いかけている。男性は持ちたいと考えているのは 287 名 (42.8%) であり、「持ちたくない」 33.2%、「わからない」と判定を保留したのが 20.4% であった。既婚男性で既に子どもがある場合では 35.3% であった。「子どもなし」では 68.6% と子ども有に比べ有意差 ($p < 0.001$) を認めた。子ありの場合では、「いいえ」と子どもをいらないと考えるのが 40.9% であった。

未婚男性で「子あり」と回答したのが 22 名 (6.4%) にみられた。未婚男性の子なしでみると欲しいと考えているのが 47.9%、いらないとするのが 28.3% であった。

表 9-1. 子を持つことへの意識

	はい		いいえ		わからない		無回答		総計
男性	287	42.8	223	33.2	137	20.4	24	3.6	671
既婚	127	39.1	122	37.5	64	19.7	12	3.7	325
子あり	101	35.3	117	40.9	57	19.9	11	3.8	286
子なし	24	68.6	4	11.4	7	20.0			35
子の有無不詳	2	50.0	1	25.0			1	25.0	4
未婚	158	46.2	99	28.9	73	21.3	12	3.5	342
子あり	6	27.3	10	45.5	5	22.7	1	4.5	22
子なし	137	47.9	81	28.3	63	22.0	5	1.7	286
子の有無不詳	15	44.1	8	23.5	5	14.7	6	17.6	34
未既婚不詳	2	50.0	2	50.0					4
子あり	2	66.7	1	33.3					3
子の有無不詳			1	100.0					1

女性は持ちたいと考えているのは 304 名 (35.0%) であり、「持ちたくない」 45.1%、「わからない」と判定を保留したのが 15.8% であった。子を持つ意識は、既に子どもがある場合で 21.5% であったが「子どもなし」では 62.5% と子ども有に比べ高値で有意差 ($p < 0.001$) を認めた。子ありの場合では、「いいえ」と子どもをいらないと考えるのが 61.6% であった。子ありの既婚女性の場合、男性に比べ「子を持ちたくない」と否定するのが有意 ($p < 0.001$) に高値となっていた。

未婚女性で「子あり」と回答したのが 61 名 (16.2%) にみられた。未婚女性の子なしでみると欲しいと考えているのが 49.8%、いらないとするのが 27.2% であった。

尚、既婚男性で子どものいないものが 24 名 (18.9%)、既婚女性 35 名 (11.5%) と「子なし夫婦」が 11% から 20% 近く存在していることが示されていた。

表 9-2. 子を持つことへの意識

	はい		いいえ		わからない		無回答		総計
女性	304	35.0	392	45.1	137	15.8	36	4.1	869
既婚	129	26.6	270	55.7	61	12.6	25	5.2	485
子あり	91	21.5	261	61.6	49	11.6	23	5.4	424
子なし	35	62.5	9	16.1	12	21.4			56
子の有無不詳	3	60.0					2	40.0	5
未婚	172	45.6	121	32.1	75	19.9	9	2.4	377
子あり	14	23.0	42	68.9	5	8.2			61
子なし	139	49.8	76	27.2	61	21.9	3	1.1	279
子の有無不詳	19	51.4	3	8.1	9	24.3	6	16.2	37
未既婚不詳	3	42.9	1	14.3	1	14.3	2	28.6	7
子あり	2	50.0	1	25.0	1	25.0			4
子の有無不詳	1	33.3					2	66.7	3
総計	591	38.4	615	39.9	274	17.8	60	3.9	1540

10. 喫煙並びに飲酒の嗜好習慣と程度

喫煙嗜好について、20歳未満と無回答者を除く有効回答者でみると男性は「吸わない」29.0%、「習慣的でない」5.6%、「禁煙した」19.4%、「習慣的に喫煙している」46.0%と喫煙者が半数近くを占めていた。世代別でみると25歳未満の非喫煙者は61.5%であり、他の世代よりも有意に高値($p<0.001$)を示していた。また、45歳以上においては「禁煙した」が32.0%と高値を示し35-44歳との間に有意差($p<0.05$)を認めた。

女性は「吸わない」が58.1%と6割近くを占め、「習慣的でない」9.0%、「禁煙した」15.7%、「習慣的に喫煙している」17.2%であった。世代別でみると「吸わない」が25歳未満が69.4%と最も多く、次いで45歳以上64.0%と続いていた。

表 10-1. 喫煙嗜好 (男性)

喫煙嗜好	25歳未満(%)		25-34歳(%)		35-44歳(%)		45歳以上(%)		男性計(%)	
吸わない	40	61.5	56	26.8	58	25.2	22	21.4	176	29.0
習慣的ではない	5	7.7	15	7.2	10	4.3	4	3.9	34	5.6
禁煙した	3	4.6	36	17.2	46	20.0	33	32.0	118	19.4
習慣的に	17	26.2	102	48.8	116	50.4	44	42.7	279	46.0
総数	65	100.0	209	100.0	230	100.0	103	100.0	607	100.0

表 10-2. 喫煙嗜好 (女性)

喫煙嗜好	25歳未満(%)		25-34歳(%)		35-44歳(%)		45歳以上(%)		女性計(%)	
吸わない	68	69.4	128	56.1	164	52.9	103	64.0	463	58.1
習慣的ではない	11	11.2	13	5.7	32	10.3	16	9.9	72	9.0
禁煙した	6	6.1	44	19.3	59	19.0	16	9.9	125	15.7
習慣的に	13	13.3	43	18.9	55	17.7	26	16.1	137	17.2
総数	98	100.0	228	100.0	310	100.0	161	100.0	797	100.0

飲酒嗜好について1週間の飲酒の有無と飲酒量を問いかけているが、これも同様に20歳未満と無回答者を除く有効回答者でみると男性は「飲まない」35.1%、「1合程度」16.8%、「1-2合程度」17.0%、「2-3合程度」7.9%、「3合以上」23.1%であった。女性は「飲まない」55.6%、「1合程度」21.5%、「1-2合程度」10.1%、「2-3合程度」3.9%、「3合以上」7.0%であった。

表 10-3. 飲酒嗜好 (男性)

飲酒嗜好	25 歳未満(%)		25-34 歳(%)		35-44 歳(%)		45 歳以上(%)		男性(%)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
飲まない	31	47.7	86	41.3	69	30.0	27	26.2	213	35.1
1 合未満程度	17	26.2	34	16.3	38	16.5	13	12.6	102	16.8
1 - 2 合程度	5	7.7	27	13.0	48	20.9	23	22.3	103	17.0
2 - 3 合程度	8	12.3	16	7.7	17	7.4	7	6.8	48	7.9
3 合以上	4	6.2	45	21.6	58	25.2	33	32.0	140	23.1
総計	65	100.0	208	100.0	230	100.0	103	100.0	606	100.0

表 10-4. 飲酒嗜好 (女性)

飲酒嗜好	25 歳未満(%)		25-34 歳(%)		35-44 歳(%)		45 歳以上(%)		女性計(%)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
飲まない	50	50.0	130	56.8	171	54.6	96	59.3	447	55.6
1 合未満	33	33.0	55	24.0	61	19.5	24	14.8	173	21.5
1 - 2 合	10	10.0	22	9.6	36	11.5	13	8.0	81	10.1
2 - 3 合			8	3.5	12	3.8	11	6.8	31	3.9
3 合以上	3	3.0	11	4.8	28	8.9	14	8.6	56	7.0
総計	100	100.0	229	100.0	313	100.0	162	100.0	804	100.0

11. 調査対象の背景の小括

1. 男女間の年齢分布

対象となった男性は 671 名で、その平均年齢は 33.8 ± 9.2 歳(16-49 歳)、女性 869 名 34.5 ± 9.4 歳(16-49 歳)であり、男女比は女性 100 に対し男性 77.2 であった。5 歳階級別の男女比をみても有意な違いは認められなかった。各年代間において男女間の違いはみられなかった。

性行動の意識と実態を検討するにあたり 25 歳未満（性成熟期前半）群、25-34 歳（性成熟期）群、35-44 歳（性成熟期後半）群、45 歳以上（更年期）群の 4 群に分けると 25-34 歳群において男性が多く有意差を認めるも、過去 4 回の調査からみて問題はないと考えた。

尚、4 群の分布は 25 歳未満群 20%弱、25-34 歳群 30%前後、35-44 歳群 35%前後、45 歳以上群 15%強であり、解析項目において母数が少数となるような場合には 35 歳未満と 35 歳以上との 2 群に分けて行うことも考慮するようにした。

2. 兄弟姉妹関係

調査対象者の兄弟姉妹関係について、独り人子は男性で 37 名 (5.5%)、女性 64 名 (7.4%) と男女共に 10%を下回っていた。その殆ど兄弟（姉妹）を有していることが明らかとなった。その平均兄弟姉妹数は男性で 1.7 人、女性 1.6 人と男女間において有意差を認めなかった。

また、興味あることとして異性の兄弟を持つのが男性 60.1%、女性 63.1%と後者に多く、25 歳未満の男性が 51.3%と低値であり 35-44 歳の 63.7%に対し有意差を認めたことである。

少子社会の中において、今回の調査対象者は独り人っ子家庭が 10%を下回っていたが、複数の子どもを持つ家庭が減ってきている「真の少子化家庭」の兆しにも思われた。

3. 中学時代の家族形態

今回は新たに中学時代の家族形態を聞いている。中学時代とはもっとも多感な時期でもあり、その時の家族構成によって影響を及ぼすことも考えられる。しかしながら、男女の総計で見ると「両親との同居」が 68%、「複合家族」22%であり、「片親家族」が 6%の構成比からみて妥当に評価できるものと思われた。

4. 職業

男性の常勤職 67.5%、自営業と学生が共に 10.9%であり、非常勤職は 7.3%であった。これを世代別で見ると 25 歳未満では学生が 57.1%、常勤職 19.8%、非常勤職

12.7%と続いていた。25歳以上になると常勤職が80%弱を占めており、自営業が7-14%と高齢に高くなっていた。無職と回答しているものが25歳以上で4%前後であり、現在の雇用関係をよく表しているものと窺われた。また、常勤職で週43時間以上就労しているものが74.3%であり、自営業でも43時間就労が73.8%と高く、非常勤職では35.4%と低く、わが国の社会的経済不況の影響が窺われた。

女性は常勤職31.6%、非常勤職27.7%、専業主婦が19.9%であり、学生は9.9%であった。世代別でみると25歳未満は学生が50.9%、常勤職26.7%、非常勤職13.9%と男性と同様のパターンをとっていたが、25-34歳群では常勤職が41.0%、非常勤職28.8%となり、主婦20.5%となっていた。35-44歳群では非常勤職が30.0%、非常勤職29.4%、主婦26.8%と主婦層が厚くなり、45歳以上になると非常勤職37.0%、常勤職26.5%、主婦21.6%となり、非常勤職が主体となっていた。1週間の就労時間について常勤職は35-42時間で47.8時間のピークを作り暫時減少していた。非常勤は15-24時間がピークを作っていたことから、今日の職種別就労体系がよく反映されているように思われた。

これら職種構成や就労状態は、今日における日本の社会的経済状況をよく反映しているものと思われた。

5. 婚姻関係

未婚、既婚、再婚、離婚、死別と5区分でみているが、未婚は男性47.2%、女性36.0%、既婚の男性44.9%、女性51.6%、再婚の男性3.6%、女性4.3%、離婚の男性3.7%、女性6.8%、死別の男性なし、女性0.6%であった。

これを職業別についてみると、既婚男性の常勤者は86.0%を占め、既婚女性は常勤職22.5%であったのに対し主婦が35.3%と最も高く、男女間における職種の違いが示されており、婚姻関係からも日本の生活関係を調査するうえに問題はないと思われた。

未婚者の平均年齢が厚生労働省統計局の平均初婚年齢と近似しており、未婚、既婚、再婚、離婚者の男女における構成比は日本における世相を反映しているものと思われた。

6. 子どもの数

調査対象者の子どもの保有人数をみると男女ともに平均1.9人であり、子どもの保有率は男性で42.4%、女性52.9%と後者に高く有意差($p<0.001$)を認めていた。未婚者における子ども保有者は男性では皆無であったが、未婚女性では8名2.6%にみられ、前回の4.7%に比べ低値であったが有意差は認めなかった。シングルマザーの存在も認められ、今日の世相を表していると思われた。

7. 最終学歴

最終学歴は男性において中卒 11.0%、高卒 40.4%、専門校卒 12.7%、短期大学 1.5%、大卒 29.1%、大学院卒 3.3%であり、女性においては中卒 8.7%、高卒 37.6%、専門校卒 17.0%、短期大学 16.8%、大卒 16.0%、大学院卒 0.5%であった。

尚、25歳未満で中卒者が男女ともに20%を超えていたが、高校生が対象者に含まれていたためと考えている。

8. 未婚者における結婚への意識

未婚者が「結婚する」、若しくは「したい」という意識について問いかけていたが、結婚を考えていたのは男性で半数の50.3%で、女性においても51.2%とほぼ同じ割合であった。逆に、「いいえ」と否定するのが男性27.8%であり、女性24.4%と約4人に1人は否定していた。この数値は未婚の全年代の平均であり、各年代でみると男性は20歳前半において結婚意識が最も低く、30歳後半になると最も高くなっていった。「いいえ」と否定するのが20歳前半に多く、40歳前半になると最も低くなっていった。しかし結婚への意欲度は低く、「わからない」と判定を保留したのが各年代層の中で最も多かった。図8-1からも推測できるように20歳前半は結婚という意識が低く、その後が高まり30歳後半がピークとなり、それを過ぎると再び「わからない」と迷いが強く表れているように思われた。

女性は結婚に対する意識がより顕著であり、意欲度は年代を経るとともに高まり30歳前半にピークを作り、その後は30歳後半から40歳前半へと急落していた。そして「いいえ」と否定するのが30歳後半から増え、40歳後半に至ると結婚意欲は10%ほどまで落ち込み、否定するのが過半数を占めるほどとなっていた。このことは女性の生殖年齢を写し出していることが読み取れるのではないだろうか。

9. 子どもを持つことに対する意識

子どもを持っている、いないに関わらず全体をみると「欲しい」と考える男性は半数近く対し女性は低く男女間に有意差を認め、逆に、「いいえ」と否定するのが男性に低く女性は高値で有意差を認めている。この傾向は未既婚でみると男性より女性に顕著に表れ、しかも子どものある家庭の女性は男性に比べ強くなり、これ以上の子どもを望まないかと否定していたのであった。

既婚者において子どものいない家庭は10数%であり、不妊夫婦は10%はいるものと思われた。その子なし家庭で子どもを望んでいるのは男女とも60数%と多くが望んでおり、子ありの家庭ではこれ以上欲しくないという考えが既婚女性に強く表れていた。この子どもを持つ意欲度に関しての男女間の違いは、性行動への影響や少子化への繋がりや否定的なことをできないように思われた。

10. 喫煙や飲酒に関する嗜好

喫煙嗜好は、非喫煙者が若い世代に増えてきたことと高年齢者に禁煙者が増えていることが示されていた。また、飲酒傾向も男性において年代が増すにつれ習慣化が窺われ、今日の社会環境に一致していることが示された。

対象者の背景を 1 から 8 までの項目からみても今日の社会的経済的情勢がよく反映されており、しかも現実の生活環境と一致していることが示唆された。

未婚者の平均年齢において男女間に有意差を認めたが、その差は現在のわが国の初婚年齢の違いと一致しており、現実に対応していると考えられる。今回も「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」として、性行動と避妊に関する意識と実態をみるには、日本の現状社会における実態に沿った妥当なものとして集計解析し検討を進めることとした。

II章. 性に関する意識について

1. 中学生が性交渉をすることに対する考え

表 1-1. 男性の考える「中学生の性交渉」について

	自分で責任が取れるようになってから(%)		しない方が良い(%)		時代の流れで仕方ない(%)		個人の自由(%)		無回答(%)		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男性総計	358	53.4	109	16.2	46	6.9	147	21.9	11	1.6	671
既婚男性	206	63.4	55	16.9	16	4.9	40	12.3	8	2.5	325
25歳未満					2	100.0					2
25-34歳	48	56.5	13	15.3	3	3.5	18	21.2	3	3.5	85
35-44歳	107	66.0	28	17.3	7	4.3	18	11.1	2	1.2	162
45歳以上	51	67.1	14	18.4	4	5.3	4	5.3	3	3.9	76
未婚男性	149	43.6	54	15.8	29	8.5	107	31.3	3	0.9	342
25歳未満	54	43.5	18	14.5	8	6.5	43	34.7	1	0.8	124
25-34歳	46	36.8	18	14.4	13	10.4	46	36.8	2	1.6	125
35-44歳	33	50.0	14	21.2	5	7.6	14	21.2			66
45歳以上	16	59.3	4	14.8	3	11.1	4	14.8			27
未既婚不詳	3	75.0			1	25.0					4
35-44歳	2	66.7			1	33.3					3
45歳以上	1	100.0									1

中学生が性交渉をすることに対する考えとして、男性は「妊娠や性感染症に対し自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが 358 名 (53.6%)、「中学生であっても個人の自由である」147 名 (21.9)、「しない方が良い」109 名 (16.2%)、「時代の流れで仕方ない」46 名 (6.9%)、「無回答」11 名 (1.6%) であった。これを未既婚別にみると「自分で責任の取れる年齢や立場になってから」については未婚男性 43.6% に対し既婚 63.4% と後者が高値で、「個人の自由である」が未婚 31.3%、既婚 12.3% と後者が逆に低値となり、両項目共に両者間に有意差 ($p < 0.001$) を認めた。「しない方が良い」と「時代の流れで仕方ない」において未既婚間に違いは認められなかった。

世代間でみると「自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」が高世代に高くなり、「個人の自由である」が減少していた。この考えは、未既婚を問わずとも「自分で責任の取れる」という考えは世代が高くなるにつれて高値となっていた。また、「個人の自由」という考えは世代が若い層に高値を示していた。

表 1-2. 女性の考える「中学生の性交渉」について

	自分で責任が取れるようになってから(%)		しない方が良い(%)		時代の流れで仕方ない(%)		個人の自由(%)		無回答(%)		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
女性総計	594	68.4	153	17.6	28	3.2	85	9.8	9	1.0	869
既婚女性	333	68.7	100	20.6	13	2.7	31	6.4	8	1.6	485
25歳未満	9	64.3	1	7.1	1	7.1	3	21.4			14
25-34歳	71	60.2	24	20.3	8	6.8	13	11.0	2	1.7	118
35-44歳	152	68.2	53	23.8	4	1.8	12	5.4	2	0.9	223
45歳以上	101	77.7	22	16.9			3	2.3	4	3.1	130
未婚女性	256	67.9	52	13.8	14	3.7	54	14.3	1	0.3	377
25歳未満	91	61.1	20	13.4	8	5.4	29	19.5	1	0.7	149
25-34歳	80	74.1	11	10.2	4	3.7	13	12.0			108
35-44歳	61	68.5	16	18.0	1	1.1	11	12.4			89
45歳以上	24	77.4	5	16.1	1	3.2	1	3.2			31
未既婚不詳	5	71.4	1	14.3	1	14.3					7
25歳未満	1	50.0			1	50.0					2
25-34歳	3	100.0									3
35-44歳	1	100.0									1
45歳以上			1	100.0							1
男女総計	952	61.8	262	17.0	74	4.8	232	15.1	20	1.3	1540

女性は「妊娠や性感染症に対し自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが 594 名 (68.4%) であり、男性の 53.4% に比べ有意 ($p < 0.001$) に高値であった。次に、「しない方が良い」153 名 (17.6%)、「中学生であっても個人の自由である」85 名 (9.8%)、「時代の流れで仕方ない」28 名 (3.2%)、「無回答」9 名 (1.0%) であった。これを未既婚別にみると「自分で責任の取れる年齢や立場になってから」について、既婚 68.7%、未婚 67.9% とほぼ同じで、「しない方が良い」既婚 20.6% に対し未婚 13.8% と後者が低値で有意差 ($p < 0.05$) を認めた。「個人の自由である」が、既婚 6.4%、未婚 14.3% と後者が逆に高値となり、両者間に有意差 ($p < 0.001$) を認めた。

男性同様未既婚を問わずとも「自分で責任の取れる」という考えは世代が高くなるにつれて高値となっていた。「個人の自由」という考えは男性同様世代が若い層に高値を示していた。

2. セックス（性交渉）に対する関心度について

セックス（性交渉）をすることに対する関心度について質問しているが、男性は「とても関心がある」が147名（21.9%）、「ある程度関心がある」399名（59.5%）「と関心ある」が81.4%を占めていた。「あまり関心がない」101名（15.1%）、「全く関心がない」13名（1.9%）、「嫌悪している」5名（0.7%）と否定するのは17.7%であった。未既婚別でもみても殆ど同じ構成比を示していたが、世代別では25-34歳代に「とても関心がある」が既婚で33.7%、未婚29.6%と関心度が高値を示すも45歳以上になると既婚11.8%、未婚7.4%と共に低値となり有意差(p<0.01, p<0.05)を認めた。逆に、「あまり関心がない」が25-34歳で既婚3.5%、未婚9.6%であったのに対し45歳以上では既婚19.7%に対し未婚22.2%と高値となり有意差(p<0.01)を認めた。

表 2-1. 男性のセックスに対する関心度

性の関心度	とても関心がある(%)		ある程度ある(%)		あまりない(%)		全くない(%)		嫌悪している(%)		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男性総計	147	21.9	399	59.5	101	15.1	13	1.9	5	0.7	6	0.9	671
既婚女性	69	21.2	200	61.5	47	14.5	5	1.5	1	0.3	3	0.9	325
25歳未満			1	50.0			1	50.0					2
25-34歳	27	31.8	53	62.4	3	3.5	2	2.4					85
35-44歳	33	20.4	96	59.3	29	17.9	1	0.6	1	0.6	2	1.2	162
45歳以上	9	11.8	50	65.8	15	19.7	1	1.3			1	1.3	76
未婚女性	77	22.5	198	57.9	52	15.2	8	2.3	4	1.2	3	0.9	342
25歳未満	19	15.3	68	54.8	28	22.6	5	4.0	2	1.6	2	1.6	124
25-34歳	37	29.6	74	59.2	12	9.6	1	0.8	1	0.8			125
35-44歳	19	28.8	37	56.1	6	9.1	2	3.0	1	1.5	1	1.5	66
45歳以上	2	7.4	19	70.4	6	22.2							27
未既婚不詳	1	25.0	1	25.0	2	50.0							4
35-44歳	1	33.3	1	33.3	1	33.3							3
45歳以上					1	100.0							1

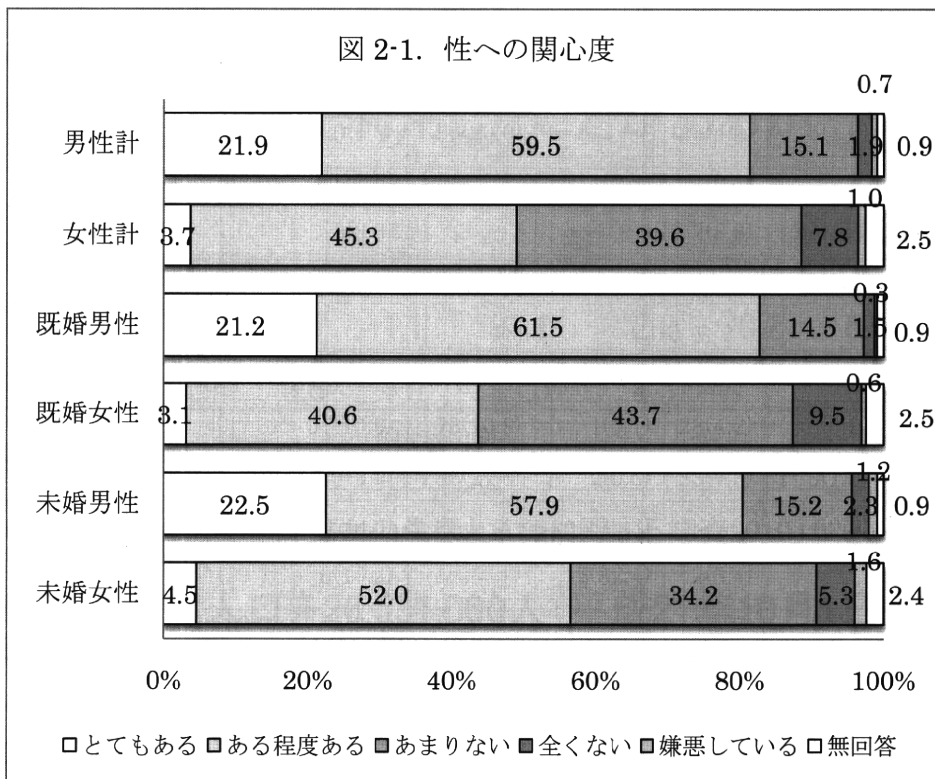
女性は「とても関心がある」が32名（3.7%）、「ある程度関心がある」394名（45.3%）と関心あるが49.0%と半数に留まった、「あまり関心がない」344名（43.7%）、「全く関心がない」68名（7.8%）、「嫌悪している」9名（1.0%）であった。未既婚別で見ると「とても関心がある」の既婚が3.1%に対し未婚4.5%であった。「ある程度はある」既婚40.6%、未婚52.0%と後者が高く有意差(p<0.01)を認めた。「あまり関心がない」既婚43.7%、未婚

34.2%、「全く関心ない」既婚 9.5%、未婚 5.3%であり、既婚が高値を示しいずれも有意差 ($p<0.01$, $p<0.05$)を認めた。世代別では高齢になるにつれ関心度が低下していた。

表 2-2. 女性のセックスに対する関心度

性の関心度	とても関心がある(%)		ある程度ある(%)		あまりない(%)		全くない(%)		嫌悪している(%)		無回答		総計
女性総計	32	3.7	394	45.3	344	39.6	68	7.8	9	1.0	22	2.5	869
既婚女性	15	3.1	197	40.6	212	43.7	46	9.5	3	0.6	12	2.5	485
25歳未満	1	7.1	6	42.9	5	35.7	1	7.1	1	7.1			14
25-34歳	7	5.9	61	51.7	43	36.4	4	3.4	2	1.7	1	0.8	118
35-44歳	7	3.1	84	37.7	110	49.3	18	8.1			4	1.8	223
45歳以上			46	35.4	54	41.5	23	17.7			7	5.4	130
未婚女性	17	4.5	196	52.0	129	34.2	20	5.3	6	1.6	9	2.4	377
25歳未満	7	4.7	73	49.0	53	35.6	10	6.7	2	1.3	4	2.7	149
25-34歳	9	8.3	60	55.6	32	29.6	4	3.7	1	0.9	2	1.9	108
35-44歳	1	1.1	49	55.1	29	32.6	4	4.5	3	3.4	3	3.4	89
45歳以上			14	45.2	15	48.4	2	6.5					31
未既婚不詳			1	14.3	3	42.9	2	28.6			1	14.3	7
25歳未満							1	50.0			1	50.0	2
25-34歳			1	33.3	2	66.7							3
35-44歳							1	100.0					1
45歳以上					1	100.0							1
男女総計	179	11.6	793	51.5	445	28.9	81	5.3	14	0.9	28	1.8	1540

男性と女性のセックスに対する関心度を未既婚別に図にすると、図 2-1のごとくとなり、明らかに男女差の違いを読み取ることができる。これによると男性の 81.4%は性への関心を持っているが、女性は 49.0%と半数しかいないことであった。未既婚別にみると既婚男性は未婚男性に比べほぼ同等であったが、女性の未既婚間において既婚で 43.7%に対し未婚が 56.5%と高値を示し有意 ($p<0.001$)な差であった。



3. 異性との関わりについて

異性とのかかわりについて面倒だと感じるかという質問をしているが、男性は「とても面倒である」21名(3.1%)、「少し面倒である」191名(28.5%)と面倒と考えるのが31.6%であった。「あまり面倒でない」227名(33.8%)、「全く面倒でない」223名(33.2%)、「嫌悪している」3名(0.4%)であり、未既婚別では、「全く面倒でない」が既婚男性36.0%に対し未婚男性31.0%、「あまり面倒でない」も同様に既婚男性36.0%に対し未婚男性31.0%であった。逆に、「少し面倒」が既婚24.3%に対し未婚32.7%と後者が有意($p<0.05$)に高値を示していた。少なくとも「面倒でない」と考えているのが既婚で72.0%に対し未婚62.0%との違いは有意($p<0.01$)な差であった。

世代別でみると既婚者において年齢が高くなるにつれ面倒と感じるものが上昇していたが大きな違いは認められなかった。

表 3-1. 異性とのかかわりについて (男性)

異性とのかかわり	全く面倒でない (%)		余り面倒でない (%)		少し面倒 (%)		とても面倒 (%)		嫌悪している (%)		無回答 (%)		総計
男性総計	223	33.2	227	33.8	191	28.5	21	3.1	3	0.4	6	0.9	671
既婚男性	117	36.0	117	36.0	79	24.3	7	2.2	1	0.3	4	1.2	325
25歳未満			1	50.0	1	50.0							2
25-34歳	43	50.6	27	31.8	14	16.5	1	1.2					85
35-44歳	53	32.7	60	37.0	42	25.9	4	2.5	1	0.6	2	1.2	162
45歳以上	21	27.6	29	38.2	22	28.9	2	2.6			2	2.6	76
未婚男性	106	31.0	106	31.0	112	32.7	14	4.1	2	0.6	2	0.6	342
25歳未満	36	29.0	41	33.1	41	33.1	4	3.2	1	0.8	1	0.8	124
25-34歳	44	35.2	32	25.6	41	32.8	6	4.8	1	0.8	1	0.8	125
35-44歳	15	22.7	25	37.9	24	36.4	2	3.0					66
45歳以上	11	40.7	8	29.6	6	22.2	2	7.4					27
未既婚不詳			4	100.0									4
35-44歳			3	100.0									3
45歳以上			1	100.0									1

女性は「とても面倒である」51名(5.9%)、「少し面倒である」351名(40.4%)と面倒と考えるのが46.3%と半数近くであった。「あまり面倒でない」268名(30.8%)、「全く面倒でない」174名(20.0%)、「嫌悪している」5名(0.6%)であり、未既婚別では、「全く面倒でない」が既婚女性15.9%に対し未婚女性25.5%と前者が有意($p<0.001$)に低値を示していた。「あまり面倒でない」既婚28.7%、未婚33.4%を考え合わせても既婚女性は面倒と考えていることが多いことが示されていた。世代別でも年齢が高くなるにつれ面倒と感じるものが上昇していた。

「面倒でない」と考えるものが既婚で44.5%、未婚58.9%と既婚者が少なく有意差($p<0.001$)を認め、男女間においても逆転現象を認めた。

表 3-2. 女性の異性とのかかわりについて

異性とのかかわり	全く面倒でない (%)		余り面倒でない (%)		少し面倒 (%)		とても面倒 (%)		嫌悪している (%)		無回答 (%)		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
女性総計	174	20.0	268	30.8	351	40.4	51	5.9	5	0.6	20	2.3	869
既婚女性	77	15.9	139	28.7	218	44.9	40	8.2			11	2.3	485
25歳未満	3	21.4	5	35.7	5	35.7	1	7.1					14
25-34歳	30	25.4	37	31.4	42	35.6	8	6.8			1	0.8	118
35-44歳	30	13.5	59	26.5	109	48.9	20	9.0			5	2.2	223
45歳以上	14	10.8	38	29.2	62	47.7	11	8.5			5	3.8	130
未婚女性	96	25.5	126	33.4	132	35.0	11	2.9	5	1.3	7	1.9	377
25歳未満	42	28.2	50	33.6	51	34.2	2	1.3	1	0.7	3	2.0	149
25-34歳	38	35.2	26	24.1	36	33.3	4	3.7	2	1.9	2	1.9	108
35-44歳	12	13.5	37	41.6	34	38.2	3	3.4	1	1.1	2	2.2	89
45歳以上	4	12.9	13	41.9	11	35.5	2	6.5	1	3.2			31
未既婚不詳	1	14.3	3	42.9	1	14.3					2	28.6	7
25歳未満	1	50.0									1	50.0	2
25-34歳			2	66.7	1	33.3							3
35-44歳			1	100.0									1
45歳以上											1	100.0	1
男女総計	397	25.8	495	32.1	542	35.2	72	4.7	8	0.5	26	1.7	1540

異性との関わりをグラフにしたのが図 3-1 である。少なくとも面倒と感じているものは男性で 32.0%に対し女性は 46.9%と有意に高値である。未既婚別で既婚男性は 26.8%に対し未婚 37.4%と 10.6 ポイント後者が多くなっているが、女性では既婚 53.1%、未婚 39.2%と男性と逆転し既婚が多く 13.9 ポイントの乖離がみられる。女性は結婚することによって男性とのかかわりを面倒と感じてきていることが明らかにされた。